

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第50週（12月10日～12月16日）平成24年12月19日現在」を平成24年12月21日に公表した。

（コメント）

2012/2013年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降増加が続いている。第50週の定点当たり報告数は1.17（患者報告数5,789）となり、**全国的な流行開始の指標である1.00を初めて上回った**。都道府県別では佐賀県（8.11）、群馬県（6.87）、沖縄県（3.79）、山梨県（3.08）、埼玉県（2.28）、千葉県（2.27）、栃木県（2.03）、新潟県（2.03）の順となっており、青森県、秋田県、岡山県を除く44都道府県で増加が認められた。

注意報レベルを超えた保健所地域は6箇所（群馬県2、千葉県、佐賀県、長崎県、大分県各1）に増加したが、警報レベルを超えた保健所地域は存在していない。

2012年第36～50週の15週間では、インフルエンザウイルスの検出は、AH3亜型（A香港型）の割合が最も多く検出されている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第46週～第50週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

